

もみ殻素材でエコ家具



コバリンが受注生産

コバリン（東京都江東区、千葉泰社長、03・3642・5246）は、コ

メもみ殻を接着剤で板状に押し固めた素材を活用し、インテリアや家具のオーダーメイド生産を始めた。イネを脱穀した際に出るもみ殻を活用することで、資源の有効利用やもみ殻の焼却処分による二酸化炭素（CO₂）の排出削減が期待できる。住宅メーカーに提案し、環境需要の取り込みを目指す。

寿建築工房（秋田県能代市）製のもみ殻を主原料とする板材「もみからエコボード」写真」を活用し、壁

00ミリ×厚さ15ミリが4、725円から。

に掛ける装飾品や本の展示台、いすを顧客の要望に合わせてコバリンが設計・製造する。板材の色は無地や緑など18種類。色に合わせ、て押し花のように紅葉など3種類の装飾ができる。製品価格は板材がベースで、縦300ミリ×横300ミリ×厚さ15ミリが1050円から、縦2000ミリ×横1000

もみからエコボードは寿建築工房が断熱材として開発。グラスウールなど既存の断熱材とほぼ同等の断熱効果があり、遮音性や調湿効果にも優れる。加工性や意匠性の高さから、インテリアやオフィスとしての需要が見込めると判断した。コバリンはペットの犬猫向けの小屋なども受注し、2012年8月期は計1万2000枚の販売を目指す。